

被災地復興、日本再生へ

<http://www.kiyomi.br.jp/>



8月7日、気仙沼で子どもからカブト虫を受け取る枝野前官房長官と。この子らの未来を守らねば。

辻元清美

衆議院議員

高槻・島本のみなさん、こんにちは。私は9月2日をもって、内閣総理大臣補佐官の任を終えました。そして、震災から半年となる9月10日、民主党に入党届を提出しました。

私は被災地支援のボランティア担当首相補佐官として、今までのネットワークをフルに活かして、今日まで働いてきました。

大きな被害を受けた被災3県の沿岸市町村にはすべて入りました。そこで実感したのは「日本は非常事態の真っ只中にある」ということ。被災者に寄り添えば寄り添うほど、要望や課題を頂くことになりました。私はいまそんな宿題を両手いっぱい抱えています。役職を離れた今も被災地の人たちの暮らしを半歩でも前に進めたい。いや、進める責任が私にはあります。

円高・デフレ・財政破綻寸前と、大震災前から日本はピンチ。そこに大震災が起きました。東北地方の人たちが塗炭の苦しみを強いられているだけではなく、放射能汚染、エネルギー問題、経済危機など、未曾有の危機に直面しています。近畿でも災害が起こり、多くの方々が犠

牲になっています。

私は大阪の小さな商売人の娘でした。商売に失敗し引っ越しを繰り返すこともありました。どんな子どもにも、あのと時の苦しさを味わわせたくない。誰もが安心して食べていける社会をつくるのが、私にとって政治の一番大事な課題です。食べていけない人が日本にたくさん生まれています。雇用・経済の不安が戦争の道に続きかねないことは歴史が証明しています。

そんな状況の中、自分はどこで何をするのがよいのか考え続けてきました。いつかではなくいま、自分の政策を「絵に描いた餅」で終わらせるのではなく、実現するためにこそ、私は今回の決断をしました。被災地からの宿題を具体的に解決し「日本再生」のために働きます。

また、今回の被災地支援の経験を大阪の災害対策に活かしていこうと思います。

これからの数年が日本にとっての正念場。大阪10区、高槻・島本のみなさまをはじめ、「志」を同じくする方々とともに歩み、力を合わせていきたいと思っています。

辻元清美

政策を実現するために力を尽くします。

宅配便2011.9.19 通算306号



衆議院・国土交通委員（理 復興特別委員として、日本



被災地の災害対策本部で
復旧・復興に全力投球。



被災自治体を丁寧に回っ
て、いっしょに課題を解
決しました。



首相補佐官の任を終え、
さっそく高槻駅前前で街頭
演説。「私も被災地に寄
付したよ」と多くの方に
声をかけていただきました
!



官邸の広報スタッフといっしょに知恵をしばってつくった「生活再建ハンドブック」「事業再建ハンドブック」「仮設住宅暮らしの手引き」。避難所や仮設住宅で配布しました。いまも官邸のホームページに掲載中。<http://www.kantei.go.jp>

オールジャパンのボランティア、自衛隊・警察に次ぐマンパワーが復旧を支えた

今回の震災では、個人ボランティア、NPO・NGO、社会福祉協議会、労働組合や生活協同組合、青年会議所や企業など、オール・ジャパンで東北の被災者を応援するボランティアの取り組みがなされました。

私はボランティアが行きやすくなるよう鉄道会社や航空会社に割引をかけあったり、「ボランティア休暇」を拡大できないかと経済団体に働きかけたりしました。ボランティアの基地を整備し、情報提供し、雇用が生まれるように被災地を走り回りました。9月現在、個人で73万人、団体も入れれば100万人近くの方々がボランティア活動に参加しました。

時間ができれば、寝袋をもって被災地へ行きました。現場で見聞きしたことを政府の政策に反映することが私の大きな役割だったからです。政府や自治体とNPOの連携も各地で実現しました。地元NPOを育てることに取り組み、被災自治体の首長とも緊密に連絡をとりあいました。

そうしたなか、多くの「宿題」を頂きました。今度は衆議院の復興特別委員として、一つひとつ解決していくつもりです。

「浜岡原発停止」は 政権交代の成果

「脱・原発依存」と菅首相が発言するまでの道のりも平坦ではありませんでした。エネルギー政策を転換するために首相官邸の中で力を尽くしました。最も危険といわれた浜岡原発を停めることは、自民党政権では絶対できなかったと思います。「この流れを止めてはならぬ」と今まで以上に強くそう思っています。ドイツでは、自然エネルギー推進で大きな雇用が生まれました。エネルギー政策の転換は緊急の課題です。

新幹線の海外展開など 日本を元気にする政策を

大震災以前からピンチだった日本を何とかしなくては。

私はそのためには「強さと優しさ、両方がいる」と思っています。国土交通副大臣として羽田空港のオープン化や観光政策など成長戦略に取り組みました。当時ベトナムなどに新幹線を「営業」しに行っていました。M9.0でもきちっと停止して事故を起こさなかった新幹線は、世界に誇る技術です。新幹線の海外展開が実現したら、日本は明るくなると思います。

またNPO法改正を超党派で実現

(事)、東日本大震災 再生のために働きます。

することができました。内需を高め、地域に仕事をつくるための政策です。いっしょに被災地を訪れた枝野前官房長官は「ボランティア団体への財政支援を3次補正で」と明言。法律も、もっと使いやすくしていきます。

経済の復興、そして心と絆の復興を！

自殺者が年間3万人を超え、「孤族」「無縁社会」といわれる状況を何とか

しようと、菅政権は「一人ひとりを包摂する社会」特命チームを立ち上げました。私は座長代理として、元「年越し派遣村」村長の湯浅誠さんらと緊急政策提言をつくりました。じわじわと社会の体調を整える、漢方薬のような政策です。今後は提言を実行にうつします。

日本を再生させるため、できることを何でもやります！



「一人ひとりを包摂する社会」特命チーム会合。「私のやりたいことを5つの特命チームとして指示した」と菅さん。菅政権を象徴する仕事でした。

南三陸町長「自治体に寄り添って解決してくれた」

津波で町立病院を流された南三陸町では、数ヶ月後も電気も水道もこないプレハブの診療施設があるのみ。病気のお年寄りが猛暑の中、外に並んで待っている状態でした。

南三陸町長からの訴えを聞いて辻元清美は、すぐに中間的な「仮診療所」をつくるために関係機関の調整に取り組みました。まもなく、「いま実現に向けて動き出している」と町長から報告を受けました。また「神戸新聞に辻元さんのことが出ていますよ」とも教えて頂きました。



上) 6月25日、南三陸町役場にて町長と。右) 7月23日神戸新聞夕刊。

論説 さらん

「ようやく苦痛に念願の水道が通せます。仮設住宅も順調で、お盆までには全入居できそうです」

東日本大震災で被害を受けた宮城県南三陸町の佐藤仁町長から、うれしい便りが届いた。少しずつではあるが、復興への歩みが進んでいる様子がうかがえる。

さらに手紙では、国の動きは鈍くて懸念しているが、ある国会議員に相談したところ「自治体に寄り添って解決してくれた」と書かれていた。「ほかの議員は大いに見習ってほしい」と添えてあった。

その議員は、阪神・淡路大震災でのボランティア経

寄り添うとは

験もある。聞いてみると、町からもらった宿題を一刻も早く解決しようと、東北から帰る車の中で各省庁に問い合わせ、町に返答したそつだ。すると、町長から「相談して返事をもらったのは初めてだ」と感激されたという。

震災後、同町を訪れた国会議員は100人を超え、町長ら幹部は復旧・復興に追われる中、貴重な時間を割いて対応した。被害の全容や窮状を訴えることで、少しでも復興に力を貸してもらいたい。そんな一心からだった。しかし、思いが受け止められなかったのか、ほかの議員からは音

「小さなことでも、その人、町にとっては大切な。一人一人の被災者に寄り添う姿勢が必要」と議員は話す。そういえば、辞任した松本龍前復興対策担当も「被災者に寄り添って」と語っていた。寄り添うとはどういうことか。いま一度考えてほしい。

(美)

高槻市の消防車両が被災地へ！

これからも「助けあいの輪」を広げます。

ここ高槻市から、嬉しいニュースが相次いでいます。高槻市と島本町が8月下旬に出したボランティアバスは、告知後30分で満席に！

そして、消防車両が全損した岩手県・陸前高田市を濱田剛史高槻市長が訪問。ポンプ車1台を寄贈することになりました。首相補佐官として沿岸部をくまなく回り、地元首長からの要望実現に取り組んでいた辻元清美は、こうした自治体間の「助けあい」がどんどん広がることに希望を感じています。そして日頃からNPO・ボランティア活動が盛んな地域は災害にも強い。高槻・島本を「ボランティア日本一」のまちへ！



上) 陸前高田市へ寄贈されるポンプ車。

下) 濱田高槻市長から、首相官邸で要望書を受け取りました。



きよみインフォメーション

■きよみ流国政報告会「永田町航海記」

『自然エネルギーが日本を変える』

日時●**10月15日(土)**
19:00~20:30

会場●
高槻市立生涯学習センター2F
多目的ホール(高槻市役所 新館)

入場無料・要予約(定員300名)

保育あり(要予約/0歳児から)・筆記通訳(交渉中)

予約・問い合わせ●TEL: 072-686-2395

FAX: 072-686-2396(つじともネット)

e-mail: info@kiyomi.gr.jp

(メールの場合件名に「10・15予約」と書いてください)

NHKスペシャルや報道ステーションなどでもおなじみの『ミスター・エネルギーシフト』。自然エネルギーの第一人者である飯田哲也さんをゲストにお迎えし、自然エネルギーの推進と新しいエネルギー産業の創設に向けた現実的道筋を提案します。

ゲスト：
飯田哲也さん
(環境エネルギー政策研究所所長)

※飯田さんが国連総会に出席するため、日時と場所が変更になりました。申し訳ありません。



辻元清美『宅配便』2011.9.19 通算306号

〒569-0805大阪府高槻市上田辺町6-20 寺本レジデンス2F
辻元清美とともに！市民ネットワーク(つじともネット)
TEL072-686-2395 FAX072-686-2396

URL●http://www.kiyomi.gr.jp/ E-mail●info@kiyomi.gr.jp

※『宅配便』はボランティアの皆さんの手で配られています。
配布のお手伝いをして下さる方を募集中です！

